

変革を遂げる長崎県立大学 ③

● 学部学科再編から4年、今とこれから

持続可能な社会を担うリーダーの育成を目指す

長崎県立大学が 独自の取り組みで示す 「実践的な学び」の形 そしてその成果とは

経営学部、地域創造学部、国際社会学部、情報システム学部、看護栄養学部。
2016年の学部・学科再編により、5学部9学科体制となった長崎県立大学。
強化した「実践的な学び」は成果を上げたのか——。木村務学長に聞いた。



木村 務 (きむら・つとむ)

長崎県立大学 学長

九州大学大学院農学研究科博士課程満期退学。西九州大学家政学部教授、長崎県立大学経済学部経済学科長、長崎県立大学副学長などを経て、2019年4月より現職。

自分ではない誰かのために
社会のために頑張りたい——。
そうした学生を育成していく

ル化、少子化などが複合的に進行し、劇的な変化の中にあります。かつての伝統的なコミュニティのしきたりに則ってでは立ち行かない。KEN-SUN力は、これからの持続可能な社会の担い手にとって不可欠なものだと考えています。

—— 学生たちには、さらにどのような成長、変化を期待しますか。

木村 先日、公務員としての採用が決まった数人の学生と話す機会がありました。公務員といえば、昔から安定した職業として人気です。やはりそうした志望理由かなと思っていて、ある

学生が自分の出身地の一次産業の将来が心配だと言う。「何とかするには行政に入るしかないと思った」と話してくれました。聞けばほかの学生も、まずやりたいことがあって、それを実現できる仕事を選んでいく。私はそのことに頼もしさを感じました。同時に、まさにこうした人材こそが今の地域社会には必要だと再認識しました。自分ではない誰かのために頑張りたい。社会のために尽くしたい。学生たちには、そのような精神を育んでほしいですし、教職員全員がそれを支えていかなければならないと思っています。

リアルな現場での経験は
学生から何を引き出したか

「実践的な学び」を具現化していくにあたり、長崎県立大学として何が重要だと考えていますか。

木村 知識を「知恵」に転換する機会を多く学生たちに提供していく。一つには、これを重視しています。例えば、人口減少が経済や社会活動にどう影響するか。それを学問的、理論的に学ぶことも大事ですが、より重要なのは理論を活用し、目の前の問題を解決していくことでしょう。学んだ知識を現場で生かせるようにすることが、実践的な学びの本質だと考えています。

そこで長崎県立大学では、離島での体験学習「しまなび」プログラム※を全学共通プログラムとし、企業や公共機関、海外での長期間の研修・インターンシップを多くの学科で必修とするなど、学生がキャンパスの外にどんどん出ていくカリキュラムを組んでいます。

—— その成果はいかがですか。

木村 リアルな現場の中で、多くの学生が「自分で考え、動かなければ、何の成果も得られない」ことを実感し、それが主体性の向上につながっていると感じます。主体性の大切さと言うまでもありませんが、やはりこれがないと今の企業や社会で活躍の場を得るのは

は難しい。近年、「企業は即戦力を求めている」と言われますが、それは業務で直ちに役立つスキルだけではないはずです。企業が新卒社員に求めているのは、むしろ主体性や課題発見力など。私たちはそう理解し、いち早く教育の中で意識してきました。

—— 確かに、ビジネス環境が刻々と変化する中、企業はそれに対応できる人材を必要としています。

木村 まさに教科書がないのが今の時代。既存の手法や考え方に頼っているばかりでは、経営課題も社会課題も解決できません。そうした中、私たちは学生に卒業までに身に付けてほしい力を「KEN-SUN力」(左ページ参照)として整理しました。現在、企業と同様、地域社会もグローバル化やデジタ



「しまなび」プログラムでは、離島でのフィールドワークを通じて、地域課題の発見、解決に取り組む。

長崎県立大学ディプロマ・ポリシー 「KEN-SUN力」	
長崎 と Nagasaki	知識 と 知恵
長崎で地域を理解するとともに世界の中のNagasakiを知ることで、グローバルに交流しながら地域・国際社会に貢献し、平和を創る力	未来を生き抜く知識を修得し、それを知恵として活用する力
尊重 と 主張	想像 と 創造
他者を尊重するとともに、自己を主張し、協働・共生する力	物事を多面的・俯瞰的にとらえる想像力と新しい知を創造する力
挑戦 と 継続	自立 と 自律
未知の課題に挑戦しつつ、学びを継続する力	自立した生活と自律的な学びをする力

長崎の地だからできる
教育、人材育成がある

—— この春卒業する学部学科再編後の1期生の就職状況を教えてください。

木村 おかげさまで就職率や就職先の企業規模をはじめ、これまでを超える実績を上げることができました。私たちの教育改革に一定の評価をいただいたものと理解しています。今後は、この成果を県内の産業振興や人口減少の抑制につなげ、地元にいっそう貢献していくことが私たちの使命です。グローバル社会でも十分活躍できる力を備えた人材を輩出し、地方創生を後押しする役割を果たしていきたいと考えています。

—— 今後の抱負や教育方針についてお聞かせください。

木村 学生たちには、大学生活の中で「大いに失敗するように」と伝えてい

ます。なぜなら、失敗とは挑戦していることの証しであり、より高いレベルを目指す原動力にほかならないからです。大学側としても、各学科ごとにカリキュラムや指導方法の質を継続的に高め、学生一人一人が現状に満足することなく、常に「もっと上へ」と思える環境をつくっていきます。

加えて、長崎という地の特性を生かした教育、人材育成により力を注いでいくことも今後の抱負です。中央から遠く離れながら、一方で古くから海外に開かれたこの長崎であれば、地域に根ざしながら広い視野を持つ人材の育成ができるはず。主体性やKEN-SUN力を備えたこれからの時代のリーダーを育てていくことが私たちの教育の基本にあるテーマです。引き続き、実践的な学びの成功事例を発信していきますので、変革を続ける長崎県立大学にご期待いただきたいと思います。

